

研究課題名	知多半島心臓リハビリテーション多施設観察研究【多施設共同研究】
研究期間	倫理委員会承認日 から 2025年3月31日 まで
研究の概要・目的・背景・意義	<p>心臓リハビリテーションの重要性は、循環器領域において定着してきた。心血管イベント回避や予後改善のみならず、特に高齢者ではフレイル予防および認知症予防の役割としても大きい。したがって、入院中の心リハのみならず、外来での心リハは重要であるが、現実的には施行率は7%と低く、臨床的に未解明の点も多い。</p> <p>このような背景から、本研究では、循環器疾患で入院した高齢者（65歳以上）を対象として、退院時、4か月後にフレイルを評価し、心予備能とフレイル評価項目との関連を調べ、入院中および退院後の心リハを含めた包括的治療によりフレイルの回復状況を確認する。高齢循環器疾患患者では、不整脈の憎悪、貧血、腎機能悪化など内因的要因から、家庭環境、喫煙、服薬状況などの外的要因も合わせて、フレイルが悪化する症例が存在するため、さらに1年後の予後調査を行うことにより、退院時、4か月後、1年後のフレイルおよび病状改善程度が予後にどのような影響を及ぼすのか調査を行い、心予備能の指標とフレイルの指標との関連を調べ、どのような因子がフレイルの悪化や予後の予測因子となるかの調査を目的としています。</p>
研究の対象	2021年4月1日から2025年3月31日までの間、当院を受診し、循環器疾患で入院した65歳以上の患者さん。
研究に用いる試料・情報の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・基本情報（年齢、性別、既往歴、生活歴、心リハ実施状況など） ・循環器的指標（心臓超音波検査、血液バイオマーカー、ABIなど） ・身体的フレイル評価（抹消骨格筋評価、移動能力など） ・精神・心理的フレイル評価（QOL評価、認知機能・情動評価など） ・社会的フレイル（ADL・IADL評価、社会性評価など） ・退院後1年後 予後追跡調査
研究方法	電子カルテ上の診療データを収集し、分析する。（観察研究）
研究における医学倫理的配慮	本研究データからは、患者さん本人を直接特定できる情報（お名前など）を削除して匿名化しますので、患者さんを特定することはできません。なお、この研究成果については、学会や学術雑誌などで発表する場合がありますが、その場合でも、上記のとおり匿名化しておりますので、患者さんのプライバシーは守られ、また、本研究により得られたデータが他の目的に使用されることもありません。
研究代表	国立長寿医療研究センター 循環器内科部 医長 平敷 安希博（責任者）
問い合わせ先	国立長寿医療研究センター 循環器内科部 医長 平敷 安希博 大府市森岡町七丁目430番地 電話 0562-46-2311（代表）
当院担当者	循環器内科 部長 早川 誠一 電話 0562-33-5500（代表）